

Cots多文化教室2024

文化の違いの乗り越え方法

Cots代表理事 西村 明夫

1

4. 多文化の知識・理論

- ① 出身国等の行動スタイル、価値観のうち主なものに関する知識も有効
- ② 宗教に関する基礎的な知識
 - ・原理主義:強い排他性と非寛容が特徴、どの宗教にも存在
 - ・ムスリム:日常の行為と宗教上の行為が不可分、食事の制限(酒、豚、ハラール以外の肉類、加工品も「×」、毎日5回のお祈り、クルアーン(コーラン)の意味、人や地域による制約順守の違い

Copyright Cots

4

■ 感情制御の基礎知識

1. 判断保留力

- ① 戸惑ったらひと呼吸
- ② すぐに性格とかマナーとか育ちのせいにならないこと
⇒ 判断を一時棚上げ

2. 共感力(エンパシー)の発揮

- ・横にいて一緒に感じる能力

Copyright Cots

2

- ③ モノクロニック(M)時間とポリクロニック(P)時間
- ④ 高文脈文化と低文脈文化

5. 柔軟性(相対化と複数化)

- ① 人それぞれ → 出身国の文化は傾向と言えるが、個々人は「人それぞれ」
- ② アイデンティティの複数性

Copyright Cots

5

3. 文化の違いを受け止めるスキル

- ① 自己文化の認識
- ② 他者の文化の気づき
- ③ 自己覚知スキルの活用
 - ・自分の常識では測れないものに出会ったときに、自分の感情がどんな反応を示すのかをあらかじめ知っておくこと
- ④ 受容

Copyright Cots

3

■ 対人援助の心構え

1. バイステックの7原則

- ① 個別化:依頼者をひとりの個人としてとらえること
- ② 意図的な感情表出:依頼者の感情表現を大切にすること
- ③ 統制された情緒的関与:支援者は適切な感情を示すこと
- ④ 受容:依頼者をありのままに受け入れること
- ⑤ 非審判的態度:依頼者を一方的に非難しないこと
- ⑥ 自己決定:依頼者が自分で決定するよう促すこと
- ⑦ 秘密保持:支援者は秘密を守ること

Copyright Cots

6

2. 傾聴スキル

- ① うなずきながら、聞くことに徹すること
- ② 相手の言ったことをくりかえすこと
- ③ 否定的な感情表現に対しても温かい視線を保つこと
- ④ 相手の話を途中で引き取らないこと
- ⑤ 相手の意見を全否定しない、一度受け止めること

Copyright Cota

7

■ 異文化コミュニケーションのストレス

1. 異なる他者の存在の意味

- ・他者がいるから自己のアイデンティティを認識

2. 困っている人を見過ごせない本性

- ・人は多かれ少なかれ傷ついている人を助けようという性分が備わっているもの

3. 本当に疲れてしまったら・・・

- ・離れること
- ・カウンセリングを受けること

Copyright Cota

10

3. 心理状態の基礎知識

- ① 危機に陥った人の状態
 - ・事実のゆがんだ認識
 - ・対応能力の低下
- ② 防御機制
 - ・否認: 直面する事実を軽く考えようとする
 - ・攻撃: 当たり散らす
 - ・退行: わがまま、甘えに陥ること

Copyright Cota

8

【文献】

- ・久米ほか(2011)『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書
- ・八代ほか(2011)『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
- ・バისტェック(尾崎訳[2005])『ケースワークの原則』誠信書房
- ・ホール(岩田ほか訳[1980])『文化を超えて』TBSブリタニカ
- ・末田ほか(2011)『コミュニケーション学』松柏社
- ・鷲田(2010)『「聴く」ことのか』阪急コミュニケーションズ
- ・ギリガン(岩男寿美子監訳[1986])『もうひとつの声』川島書店
- ・西村編『医療通訳学習テキスト』創英社／三省堂書店

Copyright Cota

11

4. 非言語コミュニケーションの重要性

- ・バーバルとノンバーバル

5. 忘れてはいけない認識

- ・全面的に弱者ではないこと

Copyright Cota

9